

未就労の若者ら 林業体験で合宿

四万十市

【幡多】未就労の若者らに1次産業の魅力を知ってもらう合宿が今月上旬から約2週間の日程で、四万十市で行われた。NPO法人青少年自立援助センター(東京)が企画し、県内外の20〜40代の男女8人が林業などに汗を流した。

1999年設立の同センターは、ひきこもりの若者らを支援。今回の合宿は、新型コロナウイルス禍で就労困難な若者らに1次産業

への就職を考えてもらおうと初めて企画した。

県内のほか東京、神奈



林業体験に汗を流す
県内外の若者(四万十市西土佐口屋内)

川、富山などから参加した一行は6〜17日まで同市田出ノ川で合宿した。同市内で自伐型林業をしている宮崎聖さん(44)を講師役に、四万十川近くの山中で間伐に必要なチェーンソーやロップの扱いを学習。原木シイタケの収穫など農作業も体験した。

東京の男性(25)は「レンタカー店で働いているが、自然の中で働きたい。高知の自然や食べ物、人の温かさに触れて刺激を受けた。林業への就職も考えてみたい」と話していた。

(芝野祐輔)